

平成25年度 第2回平塚市食育推進会議 会議録

日時 平成26年(2014年)3月25日(火) 午後2時00分から午後3時25分まで
会場 保健センター 3階 会議室1, 2
出席者 森政委員、小宮委員、加藤委員、岩田委員、三浦委員、高橋委員、佐藤委員、松本委員、上月委員、関口委員、猪俣委員(計11名)
事務局

1 開 会

石田部長：本日は、次期計画並びに現行計画の評価及び次期計画策定に向けた実態調査について皆様と協議していく。次期計画は、現行計画の基本理念である「みんなではぐくもう！食育のまち ひらつかの未来」を引き継ぎ、国や県の2次計画と整合性を図りながら策定していく。策定に向けて、行政機関や関係団体が連携し、市民自らが食育を実践していけるよう、情報の共有化が求められている。本日は皆様の貴重な御意見をいただきたい。

2 議 題

(1) 第2次平塚市食育推進計画(案)策定スケジュールについて(資料1)

事務局：今年度は、本日までに2回の庁内会議を開催し、事前に方向性やアンケートの内容について議論をした。来年度5月にアンケートを実施し、資料のとおり第2次計画策定の作業に入る。

(2) 第2次平塚市食育推進計画(案)について(資料2, 3)

事務局：資料2について、計画策定の趣旨を国、県、平塚市の順に記載した。平塚市食育推進計画は、平成22年度から26年度までの5か年計画で策定したもので、平成26年度に評価をすることになっており、庁内関係各課で構成されている平塚市食育推進計画進行会議で次期計画の方向性を検討してきた。その中で、平成23年度に実施した食育推進に関する実態調査の結果や、年度ごとに食育関連各課から報告される取組調書を踏まえ、現時点での進捗状況を確認した上で、国や県の第2次食育推進計画に準ずる内容で検討した。期間は平成27年度から10年間の計画を予定している。計画期間に関しては、国の方針に多少の変更が生じることはあっても、大きな変更は見込まれないこと、健康課策定のもうひとつの計画である平塚市健康増進計画と計画期間を合わせることで、評価や進行管理が簡潔になるということから、10年間とする予定である。社会情勢等の変化を考慮し、5年を目安に見直しも検討する。

新しい計画のポイントとして、国や県はコンセプトを周知から実践にしてきた。これまでは、食育の考え方や知識を周知することを目標に掲げてきたが、第2次計画では単なる周知にとどまらず、国民や県民が自ら食育推進のための活動を実践することにより、食に関する理解を深めることを趣旨としており、3つの重点目標を掲げている。そのため本市でも、国や県の重点目標を参考にし、現行計画の4つの基本方針を踏まえた3つの重点目標を掲げたいと考えている。基本理念、基本方針に関しては変更なし。計画指標を掲げるにあたり、国の第2次食育推進基本計画及び、県の第2次神奈川県食育推進計画の目標値を踏まえたものを目指すこと、現行計画で概ね目標が達成できたものは原則として削除す

ること、新たな取組の達成状況を図るための指標を作ること

を考慮した。

国、県の指標と平塚市の指標（案）については、資料3のとおり。資料2の4にある計画指標について、下線は新たに加わったもの、もしくは変更のあった指標となっている。

（1）は現行計画の「バランスのとれた朝食を食べる大人と子どもの割合」に準ずるものとなっている。国と県で対象となる年代が異なっているが、本市としては、ライフステージに応じた食育の推進を図っていることから、両方を踏まえて年代を設定した。（2）は本市の次期計画の重点目標にも掲げる予定である。現在、多くの取組事業の中でも、共食の必要性を啓発しているところだが、本会議でも孤食が問題であるという意見も多いため、指標として掲げたい。（3）は新規の指標で、国の計画の指標には掲げられていないが、県の指標を踏まえたものとなっている。本市では、地元の農産物をPRするため、イメージキャラクター「ベジ太」を作成し、活用している。学校給食の献立表への掲載や、地場産品を扱っている販売所等でフラッグを掲げるなどして、地場産品のPRを行なっている。本市では多くの農産物の収穫があることから、地産地消の推進を図るためにも県同様に指標として掲げたい。（4）は国が新規に掲げた指標だが、県では前計画でも指標に掲げて目標が達成できたことで、第2次計画では、国を大いに上回る目標値を設定している。本市も農業、漁業が盛んであり、より多くの市民が体験できるような取組を実施しており、委員の皆様が所属する団体等にも御協力いただいている実績もあることから、国や県と同様に指標に掲げたい。（5）は現行計画にも掲げており、平塚市独自の指標である。平成23年度の間接調査では、認知率について目標を達成していなかった。村井弦斎の食育に対する考え方を継承していくという意味でも、今後も指標に掲げたい。（6）は現行計画でも指標に掲げている。平成24年度に平塚市健康増進計画の関係で実施した、平塚市民の健康意識アンケート調査では、野菜を350g以上食べている人の割合が目標に達していない状況だった。また、健康課の幼児健診等で行なったアンケートでも、成人1人あたりの野菜の必要量が350gだと知っている人は、4割弱と少なく、実際に野菜を350g食べていると答えた人は6%程度と、かなり少ない状況だった。国の第2次計画では、この指標は掲げられていないが、本市では県と同様に引き続き指標として掲げたい。（7）は国、県ともに新規の指標である。本市では、乳幼児から成人まで健診や健康教育などの事業の中で噛むことの大切さを周知している。今後、食育を進めていく上で、噛む力が備わっていることが重要だと考えられるため、指標として掲げたい。（8）は国、県と同様の指標である。現行計画では、健康を維持するための食事を理解する人を増やすことを目標として、平塚版食事バランスガイドの作成、普及を指標に掲げている。平成23年度に平塚版食事バランスガイドを作成し、ホームページに掲載した。公共施設でも印刷したものを配布している。次期計画では、周知から実践がコンセプトであることから、国や県と合わせて指標としたい。（9）は本市独自の指標。国と県は、食育の推進に関わるボランティア数の増加を指標としている。本市でも現行計画では、食育ボランティア数の増加を掲げているが、現時点では達成ができていない。本市の食育ボランティアの主軸を担っていただいている平塚市食生活改善推進団体の会員数は、人口割合で見ると他市町村と比較してかなり多い状況にあり、これ以上の増加を取組として掲げていくことは困難であると判断し、ボランティア活動の充実を指標としたい。食育ボランティアの活動は地域に根づいたものであり

活動を充実させることが健康づくりにつながると考えている。目標値については今後検討していく。(10)は現行計画でも指標に掲げているが、平成23年度の中間の調査では目標に到達していなかったため、引き続き国や県と同様に指標に掲げたい。以上(1)から(10)を次期計画の指標としたいと考えている。基本的施策については、現行計画と同様の予定である。

会長：国や県に準じた市のあり方を追求しており、目標に到達していないものについては、今後どのように改善していくか、新規の部分については、細やかで実践的に指標を考えられていると思う。何か御意見、御質問はあるか。

加藤委員：野菜350gというのは、どのくらいの量か。

会長：大きめのザルに1杯くらいの量で、国が目標に掲げている350gの量は、目で見るとこんなにたくさん食べるのか、というくらいの分量になるのが一般的で、そのうちの3分の1くらいは緑黄色野菜を、とされている。野菜の中に、こんにゃくや海藻類を含めて、ということになっている。茹でたり、調理したりしないと相当な分量となってしまうのが実態である。

加藤委員：自宅で、毎日食事の前にたくさんの野菜が出て、こんなに食べるのかと思っていたが、今話を聞くと、実は350gは食べていないのではないかと思う。

会長：野菜によって重量は異なり、一般的には、きゅうり1本で100gと言われている。それをレタスなどの葉もの野菜で摂取するととなると、かなりのボリュームになる。国は、ビタミンやミネラル以外の、摂取しにくい食物繊維をどのように摂取すればいいかという点で、調理をして食べようという方針をとっている。平塚市民はかなり摂取できていると思われる海藻類、きのこ類も含まれ、それらを上手に組み合わせることで生活習慣病の予防につながるとされている。野菜350gがどのくらいの分量かを認知している市民がどの程度いるか、それを摂取するためにどのような努力をしているか、ということ把握した上で方針をたて、事業を実施していくことも大切なことだと思う。

加藤委員：人とのふれあいを通じた食育、とあるが具体的にはどのようなものか。

事務局：計画書の22ページに掲載されているように、行政や団体間の連携を図り、互いの活動に積極的に参加、協力することにより、市民一人ひとりが主体となって食育の活動を推進していく、としている。それを踏まえて、指標に掲げたように食育ボランティアの活動を充実させていくことで、積極的に食育の事業等に参加していただき、それによって食育に関心を持つ人が増えていく、ということを考えている。

会長：これまで周知や知識の普及にウエイトがあったところから、実践や人とのつながりによって更なる展開をしていくことに切り替えをした、と捉えている。

事務局：本日、参考資料として配布させていただいた委員の皆様の活動内容について、取りまとめをさせていただいた。市がどのような事業を実施しているか、どのような取組をしているかということをお客様に報告して、確認していただくというのが会議の趣旨である。皆様から食育に関する多くの取組を実施しているという報告を会議で伺っていたが、その量はかなりのものであるため、昨年度からこのような取組調査票で報告していただくこととした。市民から問い合わせがあった際に皆様のことを御紹介したり、皆様がお互いに情報を共有して、事業の実施の際には、連携がとれるような情報になればいいと考えている。

会長：多岐にわたる取組が既に実施されているという様子がこの資料からも分かる。食べ物という

ものは、人とのつながりをどのようにもたらすか、という手段にもなり得ると思う。

加藤委員：資料3で、平塚市の指標では食育に関心を持っている人の割合について、数値が入っていないが、実際はどうか。

事務局：県の数値は、県民ニーズ調査の結果である。平塚市は、平成19年度の調査で70.3%という結果が出ており、それを踏まえて目標値を90%以上とした。しかし、平成23年度の調査では67.5%と、減少している状況である。資料3に数値を入っていないのは、新たに実施するアンケート結果で現状値を把握した上で指標を考えていきたい、ということである。

(3) 平塚市食育推進のための実態調査について(資料4, 5)

事務局：資料4が実態調査(案)となっており、このような形で実施したいと考えている。表紙の下部の地区番号が空欄になっているが、平塚市は11の行政区域に分かれており、調査票を送付する際に、その番号を入力する予定である。

問7で、現行計画の評価にあたる「早寝早起き朝ごはんを実施している家庭の割合」の確認をし、問8、問9で「バランスのとれた朝食を食べる子どもと大人の割合」の評価をしたいと考えている。問11、問12は、第2次計画の指標である共食の割合を出す目的で、新規の質問である。問13、問14は「よく噛んで味わって食べるなどの食べ方に関心がある人の割合」の確認のため、新規の質問となっている。問15の質問によって、市民が食品に対してどのようなことを気にしているのかが把握できるため、引き続き質問項目として入れている。問16、問17は第2次計画の指標の「地元産の農産物の優先的な購入・使用」の確認をするものである。問22では、「食育に関心を持っている人の割合」の評価及び第2次計画の指標として確認をし、問24では平塚市独自の指標である「食育を唱えた村井弦斎の認知率」の評価をする。村井弦斎まつりでも、アンケートの中にこういった項目はあるということだが、参加する人は概ね村井弦斎を知っていると考えられることから、無作為抽出のアンケートにより確認したいと考えている。問25では、第2次計画の指標「健康的な食事内容を心がけている人の割合」の確認をする。問27、問28については、平塚市健康増進計画の中の指標に関わるもので、新規の質問となる。問29の料理例にある1皿分は、国で提示している生野菜で70gという分量で、簡易的ではあるが確認をしたいと考えている。問30、問31は現行計画の指標の確認となり、なるべく市民がイメージしやすい内容の事業を記載している。特に問31では、周知から実践ということを踏まえ、事業を知っているだけでなく、どのくらいの人実際にどのような事業に参加しているのかを確認したいと考えている。問32で、市民がどのような事業に参加したいのかを把握したい。問33では、第2次計画の指標「農林漁業体験を経験したことがある人の割合」を確認したいと考えている。

会長：現状を把握し、計画に盛り込むことが妥当かどうかを見るための大事なデータになる。御意見、御質問はあるか。

関口委員：平塚市の人口から見て、対象が3,000人というのは妥当なのか。

事務局：他の調査についても3,000人で実施しており、統計上は3,000人で十分目安になるとされている。システムによる無作為抽出をすると、比較的、各年代の人数を見ながらバランス良くとることが可能であり、地区についてもおおよそバランス良くとることが可能である。また、回答数は約4割と考えている。そのくらいの回答が得られれば、95%程度は情報が得られると言われている。

会長：郵送法では、回収率はだいたい40%程度だと聞いている。それでも誤差が5%ということなので、問題のないデータがとれることが検討済みということである。

三浦委員：本人が記入できない場合は、家族が代筆ということであるが、乳幼児の場合は、母親のことを回答することになるのか。そうであれば、最初から小さい子どもは省くか、もしくは何歳以上、という設定にすることはどうなのか。

会長：記入者のことではなく、対象者のことを別の記入者が記入するということである。

三浦委員：0歳の子どもに対する質問としてあてはまらないものが多いように思う。

会長：乳幼児本人に調査ができるかという点と難しい。確かに、食べ方や嘔むことに関心のある0歳児はあまりいないのではないかと思うが、分からない、という選択肢が用意されているということと、世代別で比較をしなくてはいけないということもあり、最初からその対象を省いてしまうと、偏りが出てしまう可能性がある。市民全体に同じ調査をしたときに、どのような結果が出ているのかという比較ができるようにあらかじめ調整をしておくことも大切だと思う。

事務局：調査対象の記載の仕方については調整する。

会長：私見だが、アンケートに回答することによって、食育への関心が高まっていく可能性があると思う。子どもに対してこういうことを考えていかなければいけない、という啓発にもなるのではないかと思う。そういう意味でも、この調査をすることに非常に意義があると思うので、たとえ対象者が0歳児であっても、実施していただくとありがたい。皆様から活発な御意見をいただくことで、内容が精査されていくと思う。

高橋委員：保育園では、0歳で入園してきた子どもは、栄養士と保護者と担任が話し合いながら離乳食の種類や形状を進めていくのだが、1歳以降で入園してきた子どもの場合は食事がとても大変である。母乳分泌の良い母親が、家庭でなかなか離乳食を進めてくれないことがある。母乳は良いものだから、2歳になっても欲しいだけ与えていいと言われているようで、保育園に入っても母乳を続けていることがある。そのため、保育園では母乳が飲めないで、昼寝ができずに泣く、というケースもある。母乳は確かに良い点があるが、食育という観点からも、何かしらの方法で離乳食を進めていただけたらと、いつも思っている。

会長：保護者が離乳食や離乳の完了をスムーズに展開できるような食育の方針を計画に盛り込んでいただけるといい、という意見ではないかと思う。

高橋委員：アレルギーがあって食品の種類を増やせない子どももいるが、アレルギーがない場合でも、少しずつ種類を増やしながら形状を変えていく、ということがなかなか難しい保護者もいるのかもしれない。咀嚼の問題についても、いつも話をさせてもらっているが、丸のみの子どもが結構多く、保育園で問題になっている。

会長：乳幼児の事業で関連するものは、市では何かあるのか。

事務局：離乳食教室や育児相談、保育課で行なっている開放保育等で、情報提供ができる媒体を用意している。高橋委員からいつも何うような内容を教室等でも伝えるようにしている。嘔むことに関しては、国の第2次計画にも入っていることから、祖父母対象の教室でも取り入れている。また、乳幼児訪問の際に、歯科衛生士、保健師、栄養士が同行して口腔機能のことや、嘔むことに関して確認をする、といった取組を行なってはいるが、全体には行き届いていないという現状がある。

高橋委員：どんなに取組をしても、出席する人がだいたい決まってしまうため、やむを得ない部分もある。

会長：こういう場で市の職員に意見を聞いてもらうことが、現場でのいろいろな食育の活動につながるのではないかと思う。また、保護者がどこからどういう食情報を得ているのかということも非常に重要で、2歳までは母乳で育てる、といった情報が精査をされずに入ってくるといった実態を含めた食育の推進を検討しなくてはならないのではないか。今後の検討事項としていただけるといいと思う。

上月委員：問11、問12についてだが、平塚は工場地帯があるため、朝が早かったり、夜が遅かったりという状況があり、兄弟だけで食事をしている場合もあると思うが、そこまで詳しく聞かなくていいのか。また、問15で、栄養表示、栄養価について確認をしているかどうかをぜひ聞いていただきたい。保健福祉事務所の食育は、栄養表示の普及啓発となっており、いろいろなところで聞いてみると、栄養価を見ているという意見も出てくる。それをきっかけに健康づくりにつながることも考えられるので、できれば選択肢に入れていただきたい。問26で、選択肢1は食べるようにしている、2は食べている、というように表現が異なるが、いかがか。

事務局：問11、問12について、これまでは親子、兄弟、夫婦のみ、という選択肢を入れていたが、国や県と合わせ、同じ質問とした。同じ質問にしたほうが比較、評価がしやすいと考えた。

上月委員：子どもだけで食べているのか、大人が入っているのかでは、食育に関していうと、大きく違ってくると思うので、質問は同じにするとしても、家族とは誰か、ということ聞いてみなくていいのか。

事務局：今回は聞くことは考えていない。まずは、孤食を防ぐ、ということが大事だと考えている。保護者等と食べるのが食育だとは思うが、一人で食べる、ということを防ぐことが最も重要な部分なのではないかと考えている。

会長：国や県の指標を踏まえて平塚市の指標を出した以上は、比較の基準を設けておくことが必要である。異なる質問の仕方をして比較した場合に、単純な比較ができなくなってしまうという危険性もある。確かに、子どもだけで食べている場合でも共食扱いにしていいのか、といった疑問があるのも分かるが、まずは一人で食べているかどうかといったところをよく検討し、考察の際に、家族の規模との比較という形で把握していく努力を検討していただければいいのではないか。

事務局：問15で、栄養表示についてはこれまで入っていなかったが、ぜひ検討をしたい。問26は、表現をそろえる方向で検討したい。

(4) その他

事務局：本日、皆様からいただいた取組調査票を配付させていただいた。提出していただいた分のみとなっているが、情報の共有化を目的に昨年度から実施させていただいている。市のほうでは貴重な情報として有効に使っていきたいと考えているので、皆様もぜひ活用していただきたい。

会長：ボリュームのある取組調査票となっており、あとでゆっくり拝見したいと思っている。情報の共有化は重要だと思うので、ぜひ活用していただきたい。以上で予定していた議題は終了と

なる。

事務局：次回会議は、7月か8月を予定している。また御協力をお願いしたい。

3 閉会

以 上